

□講義科目(専門科目)

科目名	医療福祉経済論	2 単位
担当者	角崎 洋平	
テーマ	福祉政策・医療政策の効率と公平についての経済学的分析	
開講形態	全回対面形式	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 福祉国家、効率性、公平性、リスクシェアリング、再分配</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 経済学(主にミクロ経済学)の手法を用いて福祉国家の意義や機能について検討する。具体的には福祉国家(福祉政策・医療政策)や社会保険制度を経済学的に分析するテキストとして定評のあるニコラス・バーの『福祉国家の経済学』を利用して講義を進める。講義は、①講師による基礎部分解説パート、②受講生との発展部分の輪読パート、③ディスカッションパートに分かれる。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 福祉政策・医療政策の意義について、効率性と公平性の観点から評価することができる。簡単な数式やモデルを用いた経済学の文献について読解することができる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 オリエンテーション：科目のねらいと進め方の確認</p> <p>第 2 回 福祉国家の意味と目的</p> <p>第 3 回 社会正義と福祉国家の政治理論</p> <p>第 4 回 国家介入の経済理論</p> <p>第 5 回 保険の経済理論</p> <p>第 6 回 所得分配と平等</p> <p>第 7 回 保険給付</p> <p>第 8 回 消費の平準化</p> <p>第 9 回 貧困救済</p> <p>第 10 回 健康と医療</p> <p>第 11 回 学校教育</p> <p>第 12 回 高等教育</p> <p>第 13 回 福祉国家の未来</p> <p>第 14 回 レポート 報告会①</p> <p>第 15 回 レポート 報告会②</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>毎週(第3回目以降)事前に、テキストの前回講義に関するページ(コピーを配布する予定。6頁～8頁ほど)について読み、テキスト各章の「Question for Further Discussion」で示されている「問」について考えてくること。</p> <p>履修にあたっては「経済学」についての素養を前提としない。</p>	
本科目の 関連科目	<p>保健・医療・福祉サービス論</p> <p>医療福祉政策論</p>	
テキスト	<p>Nicolas Barr(2020) <i>The Economics of the Welfare State</i>, Oxford University Press</p> <p>テキストに沿って講義を進めるため購入することが望ましい。ただし、講義では基本的箇所はテキストに基づいて講師が解説をし、その他の授業で扱う箇所はテキストのコピーを配布するため、購入しなくても講義の理解は可能である。</p>	
参考文献	<p>経済学の素養がなくても理解できるように努めるが、心配な受講生はミクロ経済学の簡単な入門書を事前に読んでおくとうい。たとえば以下の文献など。</p> <p>坂井豊貴(2017)『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書</p> <p>またテキストは未邦訳であるが著者の経済学のエッセンスや応用を知ることができる文献として以下がある。</p> <p>ニコラス・バー(2007)『福祉の経済学：21世紀の年金・医療・失業・介護』光生館</p>	
成績評価方法 と基準	<p>平常点(50点満点)：事前課題の実施状況、ディスカッションへの参加度</p> <p>レポート 試験(50点満点)、総合評価で60点以上を合格とする。</p>	